

逍遙館長のところ

「火山の噴火は突然に、のところ」

1月12日 逍遙^{逍遙}

突然ですが、(と言っても、話題は火山の爆発に関する事なのでお許し下さい) 今日1月12日は、大正3年に桜島が大爆発(高さ7千m前後の大噴煙)を起こし、その時流出した莫大な溶岩により、それまで独立した火山島であった桜島が、この時初めて大隅半島と陸続きになったのでした。

尤も鹿児島は、実は3百万年ほど前から巨大噴火を繰り返す活発な火山活動地帯(そのお陰で、加工し易い溶結凝灰岩が鹿児島の至る所で産出され、旧鶴丸城の石垣や石橋、明治日本の産業革命遺産である反射炉など、「石の薩摩」と呼ばれる薩摩の文化の特色にも繋がっています)であって、今から約5千年前までに現在の桜島の北岳の姿が現出、約4千5百年前に南岳が北岳に覆い被さるように形成され始めた、とされているようです。

因みに、幕末・明治維新期の島津斉彬や篤姫、西郷隆盛は、その生存期間に爆発が無いか、鹿児島を離れていたため、実は桜島の噴火を見ていません。そういえば、今皆さん方が日常悩まされている桜島の降灰は、案外貴重かも。

◎ 次回の予定 「歴史とは皮肉なもの、のところ」

